

野口彌太郎没後50年

野口彌太郎

―色の探―



前期展 2026.6.2(火)》 9.6日
後期展 2026.9.8(火)》 12.13日



上:漁村(有喜) 下:アルプスの見える港

旧長崎英国領事館2階
野口彌太郎記念美術館

【施設名】 旧長崎英国領事館／野口彌太郎記念美術館
【所在地】 長崎市大浦町1番37号 【連絡先】095-821-3205
【開館時間】午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
【休館日】 月曜日(祝日をのぞく)
【入館料】 一般700円, 小中高生350円 *旧長崎英国領事館と共通

野口彌太郎一色の探究者一

画家になろうと志した野口彌太郎は、23歳の時、登竜門のひとつであった二科展に大正11年(1922)独学で初入選を果たしています。その恵まれた素質は天成の画家と称され、特に色彩について、同時代の洋画家、児島善三郎※1から「洒脱な色と筆意は確かに他に類例のない、ユニックなものだが、殊にあの暗い部分の深い美しい色は、あの伊太利文藝復興期のチチャン(ティツィアーノ...)以後に発見出来ないものである※2」等と絶賛されました。

没後50周年を迎えた今年は、制作年代ごとに特徴的な作品を展示し、野口の生涯を通じた作品の色彩の変化を感じていただける企画展を開催いたします。

前期展では昭和4年(1929)にパリにアトリエを構えた第一次滞欧時代から、帰国し戦後の長崎をはじめ日本の油絵を求めて各地を旅した時代。30年ぶりに渡欧し「自分の色」を発見したことで色彩画家としての第二の誕生となった第二次滞欧時代までを。後期展では鎌倉市に転居し永住の地と定めてからも、アジア、ヨーロッパ、モロッコへの取材など精力的に活動し、名品を生み出し続けた晩年をご紹介します。

ぜひ、野口が探し続けた「色」の変化をお楽しみください。

※1児島善三郎(1893-1962)洋画家、独立美術協会を創立、代表作「アルプスへの道」など

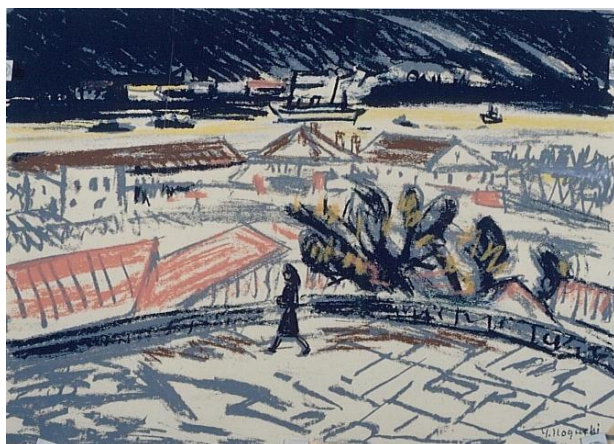
※2出典 児島善三郎「独立美術 第十五号 野口彌太郎特集」独立美術協会編 昭和9年



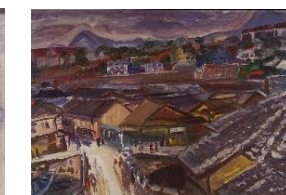
野口彌太郎(1899~1976)

日本的なフォーヴィズムの画風を確立した洋画家。独立美術協会所属。1973年『那智の滝』芸術選奨文部大臣賞(美術部門)受賞。

長崎とのかわりは、12歳の時、父の郷里であった長崎県北高来郡小野村(現・長崎県諫早市小野町)に転入したことがきっかけでしたが、特に、戦後、両親が郷里の諫早市に転居したことで、たびたび長崎を訪れるようになります。幾度も長崎を訪れ、時に数か月も滞在し、立体的な景色を形づくる斜面地や逆光にくすむ夕暮れの長崎の風景を描くなかで、独特の鮮やかな色調を見出したといわれています。



1



2



3

- 1.オランダ坂(1954)
- 2.アレジアの塔(1930)
- 3.東山手風景(不詳)
- 4.アンチーブの港(1962)

4.110queli





旧長崎英国領事館

THE FORMER BRITISH CONSULATE in Nagasaki

長崎市大浦町1番37号 TEL.095-821-3205

アクセス

- 路面電車：「大浦海岸通り」下車徒歩3分
- バス：「メディカルセンター」下車徒歩2分

*専用駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。



煉瓦造の洋館です！



*美術館内の撮影は著作権保護のためご遠慮ください